

遠藤守レポート



現場に足運び、活発に調査研究

都の来年度予算編成を前に、遠藤守都議は、何よりも現場の声を重視しています。福祉、街づくり、東京五輪など、都内全域を駆け回る活動の一部を紹介します。

がん征圧「リレー・フォー・ライフ」

がん征圧を目指し、患者や家族、支援者らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合うリレー・フォー・ライフ（RFL）というチャリティーイベントを視察しました。

1985年、米国人医師が「がん患者は24時間闘っている」というメッセージを掲げ、24時間走り続けました。これが発端となり、毎年世界中で400万人超が参加し、日本でも40カ所以上で開催されています。

当日は、猪瀬知事も視察に訪れたほか、遠藤都議は名誉実行委員長のアグネスチャンさんと、今後の都のがん対策の推進について意見を交わしました（9月14日、上野公園）。



今回紹介した以外にも、遠藤都議は、都監察医務院や東京五輪の会場予定地などを見て回ったほか、都内の約100団体から、来年度予算編成に関する要望をお聞きしています。

都の高齢者「医療」と「研究」の牙城

東京都健康長寿医療センターは、高齢者「医療」と「研究」の一大拠点であり、特に力を入れている、がん・血管病・認知症の研究分野では、WHO（世界保健機関）と協力関係にあるなど、世界最高レベルです。こうした研究成果を都民にフィードバックする啓発活動も盛んで、センター主催の「老年学講座」は130回を超え、例えば「歩幅の狭さは脳の異変の合図」など、その内容も非常に興味深いものばかりです。

視察当日、遠藤都議は、最新鋭の設備を備えた各室を見て回るとともに、井藤センター長らと機能充実に向け、幅広く意見交換しました（写真⑤。10月1日、板橋区内）。